

## 第2回 堺市子ども読書活動推進計画懇話会 議事録（要旨）

開 催 日

平成30年10月11日（木）午後3時～5時

場 所

中央図書館 集会室

出席委員

脇谷座長、太田委員、片岡委員、川本委員、岸村委員、杉本委員、  
土居委員、仲村委員

事務局

中央図書館総務課

傍 聴 者

1人

議 事

（1）情報提供

（2）「堺市子ども読書活動推進計画」の改定について

---

議 事

（1）情報提供

- ① 新潟市の学校図書館支援センターについて（片岡委員）
- ② 本市の学校図書館における「学校図書館運営のてびき」に基づく資料廃棄について（学校指導課）

（2）「堺市子ども読書活動推進計画」の改定について

- ① 第1回懇話会での意見をふまえた改定案の修正について

（事務局）

- 地域連携の取組、ボランティアに関する記述、イベントの重要性等についての記述を修正した。
- 子どもの発達段階に応じて対象別に推進手法を整理し、指標を設けた。これにより事業と進捗状況を見える化し、子どもの発達段階に応じた的確かつきめ細かい取組の推進を図りたいと考えている。

- ②（発達段階別取組）子どもへの働きかけの取組と指標について

（脇谷座長）

- 取組指標に「発達段階に応じた読書関連イベントの開催回数、参加人数」があるが、イベントの開催だけで、子どもの読書活動を測ることができるかは疑問である。

- 保育所等の絵本の所蔵冊数、読み聞かせなどの実施回数も指標としてはどうか。基礎的なデータがないと、取組の進捗状況がわからない。

(川本委員)

- 乳幼児期、学童期の子どもの読書への関心は深まっていると思うが、その関心が持続していないと感じる。

(岸村委員)

- 学齢期の取組が茫洋としている。情報リテラシー教育については、低学年から取り組む必要がある。アクティブラーニングについても取組が必要。

(仲村委員)

- 子どもたちには、読書の楽しさをぜひ知ってほしい。子どもの読書推進に熱心に取り組むあまり、「楽しい」ことがよくないことのように受け止められると問題である。
- 情報発信については、ホームページはわざわざアクセスする必要がある。今は、LINE や Twitter などがよく使われている。図書館でもアカウントを持ってないか。

(杉本委員)

- 図書館職員が地域で、「えほんのひろば」のような事業を実施し、本の紹介などもすべき。

### ③（発達段階別取組）保護者への働きかけの取組と指標について

(太田委員)

- 子どもが小さい時には一緒に絵本を読んでいた保護者も、子どもの成長とともに子どもの読書状況がわからなくなり、「読書イコール勉強」という感覚になる。読書が「楽しい」ことではなくなる。

(片岡委員)

- 子どもが本を好きになるには、親が読書している姿を見せることが大切。本棚が家があり、そこに保護者が好きな本が並んでいるということが重要である。家庭での取組として、中学生に自分の本棚を与え少しずつ本を揃えていく、幼児に段ボール等で本棚を作り、図書館で借りてきた本や買った本を並べるといったこともできる。

(仲村委員)

- 祖父母への働きかけも重要で効果的。

### ④（発達段階別取組）読書環境の整備の取組と指標について

(土居委員)

- 取組指標「団体貸出利用団体数」は、読書環境を提供している団体数を測ることができる良い指標だと思う。
- 市立図書館の児童書の貸出点数については、小学生が校区外に行けないことを考慮すると、子どもの読書の実態を映しているとは言いにくい。また、図書館の児童書は子どもだけが利用しているわけでもないが、どう考えているのか。

(事務局)

- 子どものための資料は、保護者が自分の貸出カードで借りることもあり、子どもの登録

者数よりも児童資料の貸出点数の方が、利用実態を反映していると考えている。また、保護者以外の大人が借りる児童書についても、読み聞かせや本の紹介等の形で子どもの読書活動のために利用されているものが中心であると考えている。

(土居委員)

- 学校図書館が充実すると、公共図書館の児童資料の利用は確実に減る。公共図書館の取り組みのがんばりが反映されるような指標にしてほしい。
- 子どもの読書の実態を表すのは、やはり学校図書館の来館者数・貸出点数といった利用状況。学校図書館が授業で使われた時間数で、「学習センター」としての利用状況がわかる。

(岸村委員)

- 拠点校では、学校図書館をオリエンテーションや授業で利用した時間数や、児童1人あたりの年間平均貸出点数の他、休み時間の来館者数、総来館者数、総貸出点数等についても集計している。所蔵資料については、所蔵点数の多さよりもその内容が大事だと思う。社会状況に合わなくなった古い資料をきちんと廃棄し、学校図書館の役割を果たせる資料を整備することが重要。

(脇谷座長)

- 指標とするかどうかは別として、学校図書館の基礎的な数値を把握し公表していくことが必要。記録し公表することが、利用の増加につながる。

(片岡委員)

- 学校図書館の開館日数、所蔵資料点数、貸出点数といった基礎的な数値は公表すべきと考えるが、それぞれ把握しているか。把握しているなら、なぜ公表しないのか。

(学校指導課)

- 開館日数については、学校により開館時間帯等の状況が異なり、単純に日数で表すことが妥当とは思えない状態である。所蔵資料点数については、資料の整備を進める中で、除籍作業を行っているため、学校図書館図書標準の達成率が低い状態にある。貸出点数の調査も実施しているが、年度により開館日数が異なるので必ずしも増加していない。

(片岡委員)

- まずは基礎的な数値を出すことそのものを目標としてはどうか。
- 学校図書館のスペース不足については、学校図書館はそのまま、空き教室を利用し、低学年向けの読み物室などにする方法もある。
- 電算化は、学校ごとに実施すると、最終的に統合しようとした時に非常に大変。一元管理できるようにしておく、物流も効率化する。

(岸村委員)

- 学校の規模により資料購入予算が違うことは、非常に重要な問題。大規模校と小規模校で購入できる冊数が違うと、同じレベルの資料が用意できない。

(片岡委員)

- 寄贈資料の取り扱いについて整備し、卒業生等からの寄贈を受付けてはどうか。

(土居委員)

- 寄贈資料は、装備や登録が必要。利用するためには手間がかかるという面もある。

(川本委員)

- 学校間で資料を貸借するということはできないか。そのためにも電算化が重要。

(脇谷座長)

- 学校司書の配置と、環境の整備が重要。

(杉本委員)

- 多くの学校で、学校図書館のスペースが狭く、学校図書館図書標準冊数を配架できる広さがない。今後の学校図書館のあり方を考えて、改装等の整備を進めてもらいたい。
- 資料購入費以外の予算がなく、書架が買えない。きちんと予算化してほしい。
- 学校図書館の基礎的なデータは、公開してほしい。ボランティアが行っているおはなし会についても、学校の状況、子どもの読書環境があらかじめわかっているならば、よりよい準備ができる。
- 学校司書には研修会があるが、幼稚園・保育所等のスタッフは、絵本について勉強する機会が少ない。子育て支援と合わせて、私立も含めた職員向け研修を望む。
- 身近なところに市立図書館や分館を整備し、乳幼児期からの取組を行うことが望ましい。

(仲村委員)

- 市立図書館の電子書籍の現状はどうか。

(事務局)

- 平成 29 年度末の電子書籍の所蔵点数は 7754 点、平成 29 年度の貸出点数は 9312 点、予約点数は 1222 点。

(太田委員)

- 子どもが減少する中、地域の子育てサークルも消滅しつつあり、取組が必要。地域会館等を使って読書できる場所を作れば、保護者も子どもの読書状況の把握ができる。

(脇谷座長)

- 身近なところで本に触れる場所と、本の面白さを伝える人の存在が大切。子ども会、老人会などを巻き込むことは、地域の活性化にもつながる。地域が基礎になってこそ、読書推進が進む。結局はまちづくりにもかかわってくる。

(岸村委員)

- 指導者により子どもの読む本が変わることがある。指導者に対する研修、保護者に対する啓発が重要。

## ⑤（発達段階別取組）推進体制の強化の取組と評価ポイントについて

(川本委員)

- 毎年開催している「堺っ子読書フォーラム」において、取組の進捗状況を公開してはどうか。

以上